

狩猟と野生獣肉（ジビエ）に関するアンケート調査の集計結果

調査時期： 平成21年5月

対象者： 県政モニター 198人

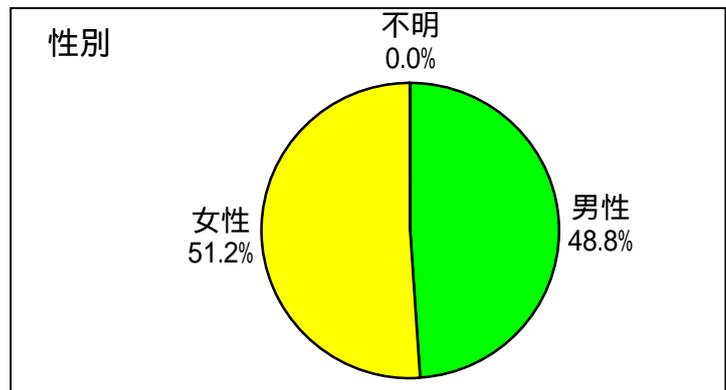
回答数： 166人(回収率83.8%)

担当課： 琵琶湖環境部自然環境保全課

調査目的： 県では、農作物等に被害を及ぼすイノシシ、サル、シカ等のいわゆる有害獣について、保護管理計画を策定するなどし、個体数調整、被害防除、生息環境整備の3本柱により対策を推進しています。
その柱の一つである個体数調整については、獣の捕獲が必要となりますが、狩猟者の確保対策や捕獲した獣肉の利活用が課題となっています。
そこで、これらのことに対し県民の皆さんが日頃どのように考えられておられるかを知るためにアンケート調査を実施しました。

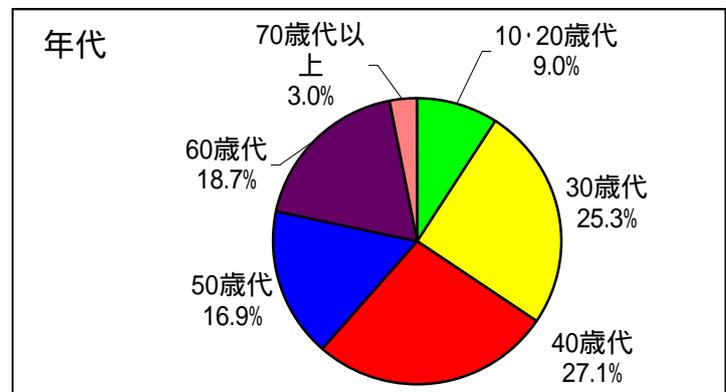
問1 あなたの性別を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
男性	81	48.8%
女性	85	51.2%
不明	0	0.0%
合計	166	100.0%



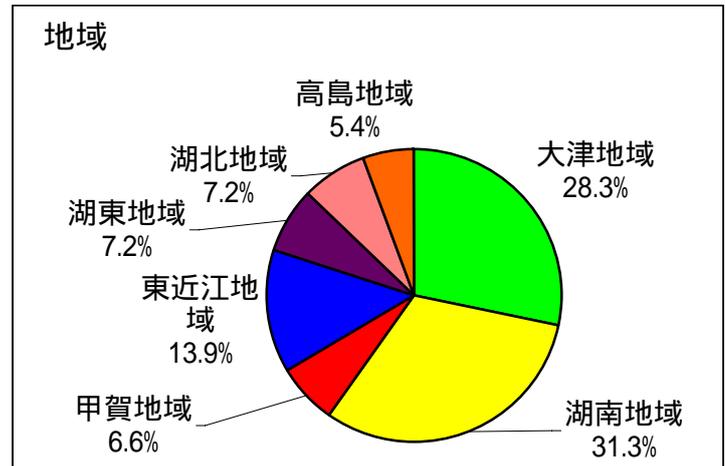
問2 あなたの年代を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	15	9.0%
30歳代	42	25.3%
40歳代	45	27.1%
50歳代	28	16.9%
60歳代	31	18.7%
70歳代以上	5	3.0%
合計	166	100.0%



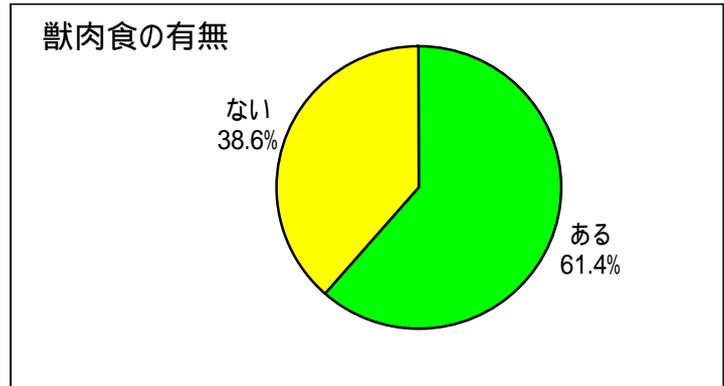
問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	47	28.3%
湖南地域	52	31.3%
甲賀地域	11	6.6%
東近江地域	23	13.9%
湖東地域	12	7.2%
湖北地域	12	7.2%
高島地域	9	5.4%
合計	166	100.0%



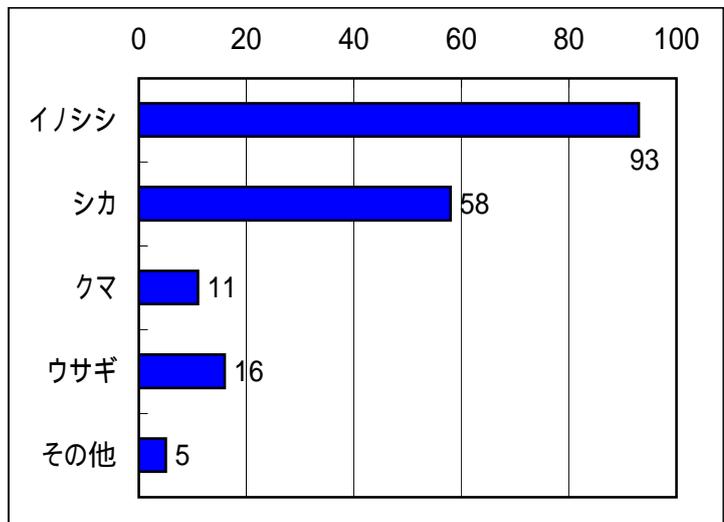
問4 あなたは、野生獣の肉を食べたことがありますか。

項目	人数(人)	割合(%)
ある	102	61.4%
ない	64	38.6%
合計	166	100.0%



問5 問4で、「ある」と回答された方におたずねします。どのような種類の獣肉を食べたことがありますか。(複数回答可)

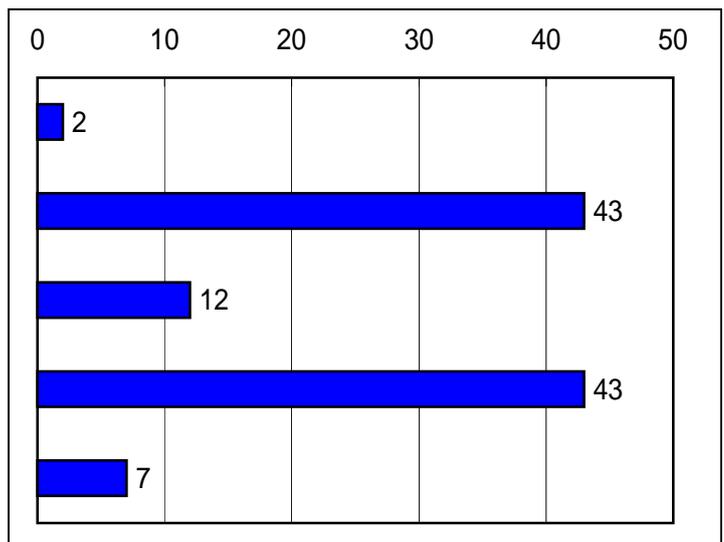
項目	人数(人)	割合(%)
イノシシ	93	91.2%
シカ	58	56.9%
クマ	11	10.8%
ウサギ	16	15.7%
その他	5	4.9%



その他:
カンガルー、ワニ、ダチョウ、馬、
実験動物

問6 問5で、「2.シカを食べたことがある」と答えた方におたずねします。それは、どのようにして入手し、食べられましたか。(複数回答可)

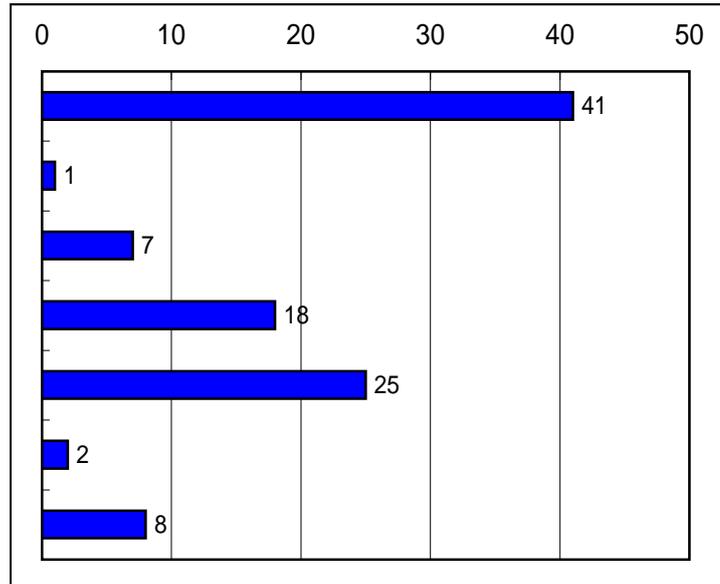
項目	人数	割合(%)
自分で捕獲し、さばいた。	2	3.4%
家族や知人からもらった。	43	74.1%
店などで肉、くんせいなどを購入した。	12	20.7%
レストランや旅館などで注文した。	43	74.1%
その他	7	12.1%



その他:
知人から料理として提供してもらった。等

問7 問5で、「2.シカを食べたことがある」と答えた方におたずねします。どのような料理として食べられましたか。(複数回答可)

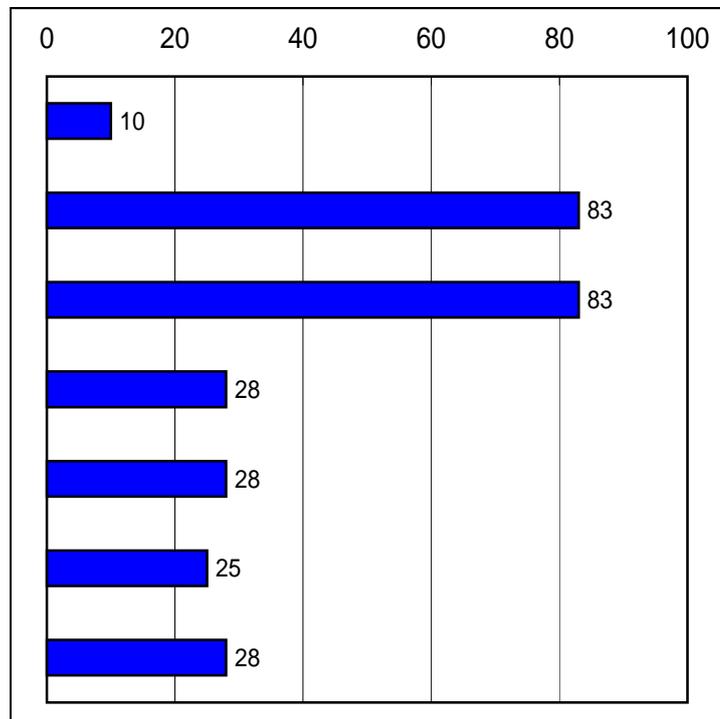
項目	人数	割合(%)
鍋料理	41	70.7%
しぐれ煮、炊き込みご飯	1	1.7%
くんせい、ソーセージ	7	12.1%
ステーキ、カツ	18	31.0%
刺身	25	43.1%
シチュー、カレー	2	3.4%
その他	8	13.8%



その他：
焼き肉(4人)、煮込み、うさぎ汁
ステーキ(ブルーベリーソース)
ロースト、たたき

問8 野生獣肉(ジビエ)に対してどのようなイメージをお持ちですか。(複数回答可)

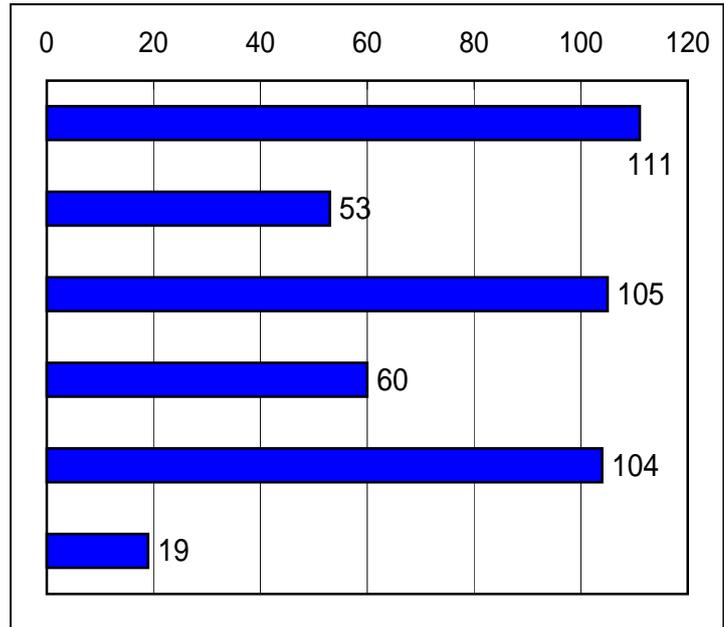
項目	人数	割合(%)
天然のものだけを食べて育っているので安全	10	6.0%
衛生管理がきちんとされているか不安	83	50.0%
どのように調理したらよいか分からない。	83	50.0%
うまみがあり、おいしい。	28	16.9%
高級食材である。	28	16.9%
特にイメージすることはない。	25	15.1%
その他	28	16.9%



その他：
臭み等、おいしくなさそう(7人) 食肉という意識がない(2人)
寄生虫やウイルスが心配(5人) かわいそう(2人)
食べ慣れない(3人) 入手しにくい(2人)
珍しい、珍味(2人)

問9 野生獣肉(ジビエ)がより広く食べられるために必要なことは何だと思われますか。
(複数回答可)

項目	人数	割合(%)
ジビエの味をより多くの人に知ってもらう機会を創る。	111	66.9%
もっと安い値段で提供する。	53	31.9%
衛生面での安全性が分かるよう基準を設ける。	105	63.3%
ジビエは地域の資源であるという認識を強めるような普及啓発を実施する。	60	36.1%
身近に購入できる場所を増やす。	104	62.7%
その他	19	11.4%

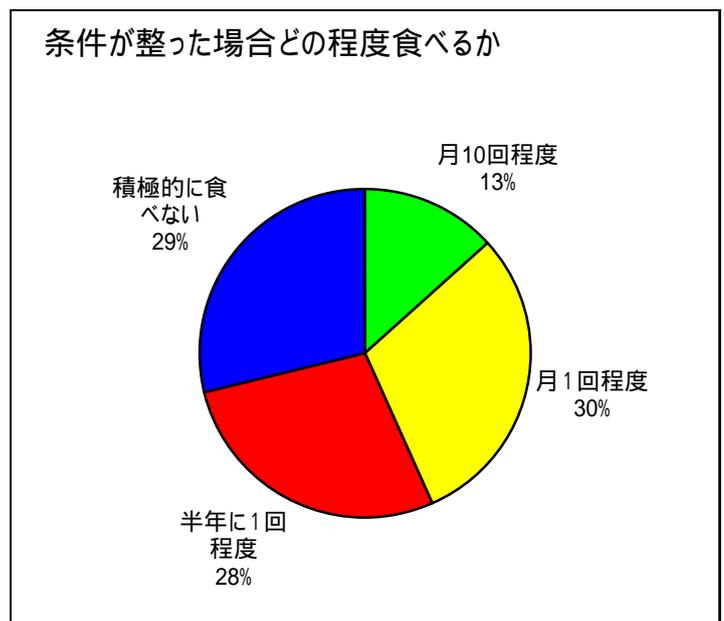


その他:

- 調理方法を工夫、啓発する。(6人)
- 広まらなくてもいい。広まる必要はない。(5人)
- 特産品や土産物としてアピールする。(2人)

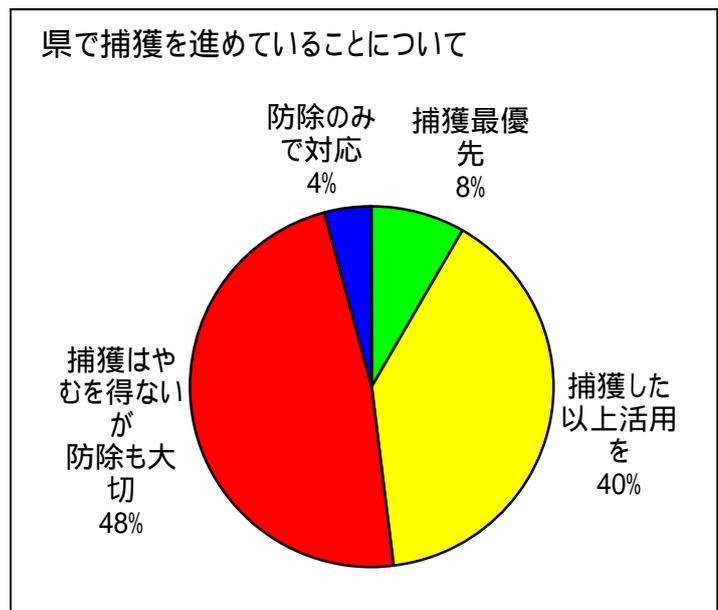
問10 問9で質問したような要件が満たされた場合、野生獣肉(ジビエ)を積極的に食べようとされますか。

項目	人数	割合(%)
豚肉や牛肉と同様、家族で日常的に食べる。(月に10回程度)	22	13.3%
何らかのイベントがあった時など、たまに食べる。(月に1回程度)	50	30.1%
旅行やレストランに行った際に注文する。(半年に1回程度)	46	27.7%
積極的には食べない。	48	28.9%
合計	166	100.0%



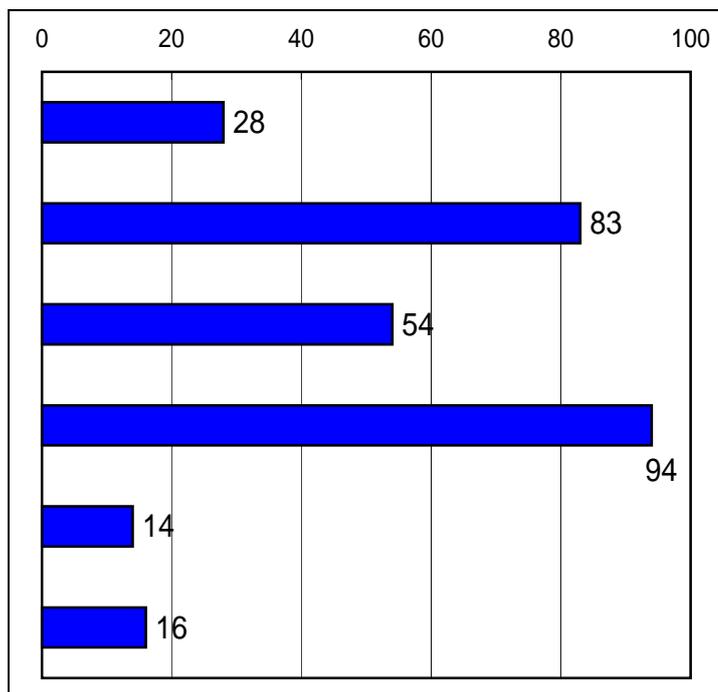
問11 県では、農林業被害や、生態系への被害が懸念されるため、増えすぎたイノシシやシカの捕獲を進めています。このことについてどのように思われますか。

項目	人数	割合 (%)
とにかく捕獲を最優先で進めていくことが大切だ。	14	8.4%
捕獲することは大事だが、捕獲した以上は、肉として食べるなど活用しなければならない	66	39.8%
捕獲することはやむを得ないが、柵を設置するなど、防除の取り組みと同時に進めなければならない。	79	47.6%
捕獲は行わず、被害に対しては防除のみで対応すべきだ。	7	4.2%
合計	166	100.0%



問12 野生獣の捕獲を進めていく上で、ハンターの担う役割が重要となりますが、ハンターに対してどのようなイメージをお持ちですか。(複数回答可)

項目	人数	割合 (%)
野生獣のさばき方や調理方法に詳しい。	28	16.9%
野生獣の行動や生態をよく知っている。	83	50.0%
野生獣の増加の抑制に協力している。	54	32.5%
猟銃をきちんと管理しているか不安である。	94	56.6%
不要な殺生をしている。	14	8.4%
その他	16	9.6%



その他：
 特にイメージがない。(4人)
 高齢化が進んでいる。(3人)
 銃の管理に不安がある。(3人)
 行政が役割を担うべき(2人)

問13 自由記述(主な意見)

野生獣の被害について

野生獣の被害を受けた。

野生獣の被害があるので捕獲を進めるべき。

環境を破壊するくらいに増えている動物に対しては、もっと積極的に捕獲していくべき。

科学的な根拠に基づいて、頭数をコントロールすべき。

必要以上に増えた野生鳥獣の捕獲はやむをえない。

ある地域で増えすぎて生態系のバランスを崩すようになってきたら、駆除を考慮せざるを得ない。しかしその場合でも乱獲は避け、またその肉は有効に利用するのは動物に対するある種の礼儀ではないかと思う。

野生鳥獣と共存していくために、どうしても害がある場合は捕獲しても仕方がないと思うけれども、食べることに関しては抵抗がある。

農作物への害を防ぐ事は必要だが、その前に野生動物が野生で暮らせる環境を作る事も大切だ。

害がなければ無意味に殺すことはない。

野生獣は、自然の摂理の中で生きており人間の不都合で捕獲するのは納得できない。

捕獲することについてそんな殺生をする必要があるのかとも思う。

野生獣が増え過ぎた原因について、深く考える必要がある。

保護しすぎたり、捕獲しすぎたり生態系を乱すことは避けてほしい。

対象獣が、マイナスイメージにならないようにしてほしい。

狩猟について

猟をすることはいいのだが、安全面などの考慮をしてほしい。

ハンターに対してもある種の偏見があることは否めない。広報活動が必要だ。

ジビエについて

野生だけに、様々な病原菌を持っている可能性があり、衛生管理を徹底する必要がある。

肉の消費を見直し、牛や豚を制限しつつ、これらの肉を流通させてはどうか。

あまり進んで食べたいとは思わない。